

# ジモト で 保護者版 はたらく



## 先輩の姿から、 地元就職を知る

これからの就職先を考えると、

地元に残る」「離れる」という決断で

悩んでいるご家庭もあるのではないだろうか。

この冊子では、地元企業で活躍する若者の

実際の仕事や休日の過ごし方などを紹介。

地元就職ならではの魅力とやりがいについて

聞いてみました。



先輩の姿から、地元就職を知る ..... 2

地元で働く魅力 ..... 4

石川 達也さん 佐々長醸造株式会社

中山 真尋さん 井ヶ田製茶株式会社

阿部 健人さん 国見まちづくり株式会社

被災3県の高校生・大学生の就職に関するアンケート ..... 8

まずは、地元企業を知ることから始めてください ..... 10



# 地元で働く魅力



## 地元で輝く3人からのメッセージ

産業構造の変化やグローバル化が進み、日本企業の採用ニーズが様変わりする中で、高校生や大学生の就職活動を取り巻く環境も年々変化しています。最近では、景気が回復していることや人手不足を背景に、企業の採用意欲が高まっていることから、生徒や学生に有利な「売り手市場」が続く、就職先の選択肢の幅が広がりをみせています。

「地元就職」もその一つ。県内の高校や大学に通う生徒・学生をはじめ、県外や首都圏の大学の学生に対して、地元企業が熱い視線を送っています。特に、岩手・宮城・福島 の3県には、東日本大震災を乗り越え、地元の復興を成し遂げたいと意欲に燃える魅力的な企業がたくさんあります。

これから紹介する3人は、ふるさとに魅力を感じ、地元企業で生き生きと働くみなさんです。「地元で愛される商品づくりに幸せを感じる」という石川達也さん。「両親や友人のそばで、仕事と私生活の両方が充実している」と話す中山真尋さん。「仕事を通じて、ふるさとへの誇りを実感している」と語る阿部健人さん。3人が地元で頑張る姿や地元への思いを感じながら、保護者のみなさまもお子様と一緒に「地元で働くこと」について考えてみてください。

佐々長醸造株式会社

## 石川達也さん



地元就職に迷いなし  
モチベーションは右肩上がり

入社13年目の石川達也さんは、醤油の製造管理部門で働き、製造スケジュールの調整や在庫管理、包装出荷などを担う。正確に、スムーズ

に、効率良く。製造から出荷まで滞りなく運ぶよう全体に目配りし、必要に応じて年上の従業員にもテキパキと指示を出す。

地元の高校の農業科に通い、就職は「自宅から通える範囲の県内企業で、接客よりも製造業」と、漠然と考えていた。同社の求人を見てくれたのは、高校の先生だ。面接当日、工場でフォークリフトやトラックが目に入り「カッコいいな、って思ったことを覚えています」とはにかむ率直なところ、情熱と意欲を前面に出して入社した、というわけではなかった。「それが、今ではバリバリやってくれていますから」と、専務の佐々木洋平さん。「内面に熱いものを隠していたんでしょうね」。

地域で愛される  
商品を提供する喜び

住み慣れて、家族も友だちもいる地元・花巻が好きだ。必要なものはそろそろ、慌たしい大都会で暮らしたいとは思わない。人が住むのは「適度なイナカ」が一番いいような気がする。

社会経験を積み、時に悩みも深くなる今は、なおさら「素の自分」をさらけだせる幼なじみの存在が宝物だ。一つ屋根の下に3世代で暮らせるのも、花巻に住めばこそだと思う。同社で働く喜びの一つは、「おたくの醤油 本当においしいね」「うちでいつも使ってます」といった生の声を聞けること。地元の水と風土で醸す調味料だからこそ、地元の人の口に合い、暮らしになじむのだと実感する。地域で愛されるものづくりに携われることを、素直に幸せだと感じると話す。



他部門の責任者との打ち合わせも行う。

保護者の方への  
メッセージ

地場産品を世界へ発信  
地元でも活躍できます

わが社の商品は岩手県内での消費が大半ですので、消費者の反応がダイレクトに感じられます。地元の水と風土、地場産品を使ってものづくりをし、地域に還元できることの幸せを実感します。これは、大手メーカーでは味わえない、地元密着型企业ならではの喜びだと思います。近年、世界的に和食人気が高まり、醤油や味噌といった日本の伝統的調味料も注目を集めています。これからは、グローバルな仕事で、地方でもできる時代。発想力や創造力が活かせる活躍の場が、地元にもたくさん生まれてくるはずだと思います。



井ヶ田製茶株式会社

## 中山真尋さん



**お茶を通して日本文化の  
魅力を発信し続けたい**

入社1年目の中山真尋さんは、秋保温泉にほど近い観光農業施設「秋保ワイレッジアグリエの森」の中にある「喜久水庵アグリエの森店」で、

主に接客と販売を担当している。祖母がお茶の教室を開いていたこともあって、子どもの頃からお茶が大好きだった。そのため、就職の際は迷うことなく同社を選んだという。

「お店に出る前には、鏡に向かってスマイルチェックをするのが私たちの日課です。いつもお客様のために何ができるかを考え、行動に移そうとする人が集まっています」と語る中山さん。地域に深く根付いた施設の中で働くことで、使命感が育まれ、中山さんをはじめ、ここで働く社員の原動力になっているようだ。

東北を代表する温泉街に近いこともあり、年々外国人客も増えている。お茶の魅力をたくさんの人に知ってもらうために、「さまざまなお茶の楽しみ方を伝えたいです」と中山さんは目を輝かせた。

**仕事もプライベートも充実  
「地元で良かった」を実感**

自宅から職場までは、マイカーで約40分の距離だ。通勤ラッシュや渋滞に巻き込まれることもない。仕事を終え、家に帰れば家族が

待っていてくれて、夕食も用意されている。貯金もしっかりしていて、新車を購入するのが目下の目標という。週休2日制で、休日は友人と会うのが楽しみの一つだ。「体を動かすのが好きなので、時々友だちと体育館を借りてバスケットをすることもあります」。高校の同級生の多くが地元で就職することを決めたこともあり、仙台での就職を考えたという中山さん。「自宅から通える範囲で就職先を探してみても、母から勧められたことも当社を選んだ決め手の一つです。仕事もプライベートも充実しているので、とても満足しています」。



先輩たちも温かく見守っている。

## 保護者の方への

### メッセージ

**大切な人がそばにいる  
「安心感」があります**

私が地元で就職したことについて両親は、「娘が社会人となり成長していく様子を近くで見ることができて良かった」「何かあったも仲のいい友だちからアドバイスしてもらえ、うまくリフレッシュできているようで良かった」などと言っています。

親元を離れると何かと不安なこと多いので、安心できる環境が一番だと思います。私自身も地元で就職し、改めてふるさとの魅力を知ることができ、毎日発見の連続です。何より、自然豊かな環境の中でゆとりを持って過ごせるので、地元での就職を選んで良かったと満足しています。



国見まちづくり株式会社

## 阿部 健人さん



### コンビニ店長の転職経験を 活かして愛する地元へ

阿部健人さんは、「道の駅国見あつかしの郷」にあるコンビニエンスストアの店長だ。「実は、前職もコンビニの店長でした」と入社3年目

の阿部さんは話す。

町内に高校がないため町外の高  
校、短大と進学。就職活動では、地  
元近くで就職先を探したが、国見町  
には求人が少なく、隣接する伊達市  
で一人暮らしをしながら働き始め  
た。それでも地元を据えて働き  
たいという思いは消えず、地元の国  
見町で新しくできる道の駅にコンビニ  
の店長を募集することを知って、  
迷わず応募したという。

役場に勤める同級生から、道の駅  
に寄せる地元の熱い期待を聞いたこ  
とも、後押しになった。

数年ぶりに実家へ戻ると、やはり  
心が落ち着く。「家に帰って家族が  
いる環境がいい。しゃべったり笑っ  
たりするだけでストレスも消えま  
す」と笑顔になる。いざとなれば頼  
れる家族や古い友人がそばにいる、  
という安心感も心強い。

### お客さんから教わる地元の魅力 自慢は「農産物」と「人」

以前のコンビニと大きく違うのは  
客層だ。こちらは観光客が圧倒的に  
多く、女性の割合が高い。売れ筋商

品も独特なので発注には気を遣う。  
うれしいのは、地元の名産品を褒め  
られるときだという。

「お客様から『国見はいい人とお  
いしいものばかりね』と言われます。  
地元の良さを、よそから来たお客様  
から教えてもらえるなんて、思っ  
てもいませんでした」と話す。

同社の目的の一つは若者雇用の受  
け皿となること。農産物と人材を活  
かした新規事業の芽は、生まれつつ  
ある。「今は高校で町外へ出たら、  
そのまま就職する人が圧倒的。国見  
町を『戻りたい地元』『戻れる地元』  
にしたいです」と阿部さんは語る。



コンビニの一押し商品は、特産の桃を使ったお菓子！

## 保護者の方への

### メッセージ

### 仕事を通じて 地元の魅力を発見できます

地方の小さな町で何代も続け  
て暮らす家庭に育つと、実は地  
元の良さを自覚していないこと  
が多いものです。国見町はもち  
ろん、福島県内の市町村も、全  
国に誇る特産品や隠れた実力派  
企業など、いいものがたくさん  
あるにもかかわらず、あまり地  
元の人間に知られていません。  
そこを知れば、地元で働くこと  
の喜びが実感できると思います。  
「こんなにおいしい作物がある  
んだ」「すごい名人がいる」など、  
地元の魅力について発見すると  
感動します。国見に生まれ、暮  
らしていることを誇りに思うこ  
とができます。



# 被災3県の高校生・大学生の 就職に関するアンケート

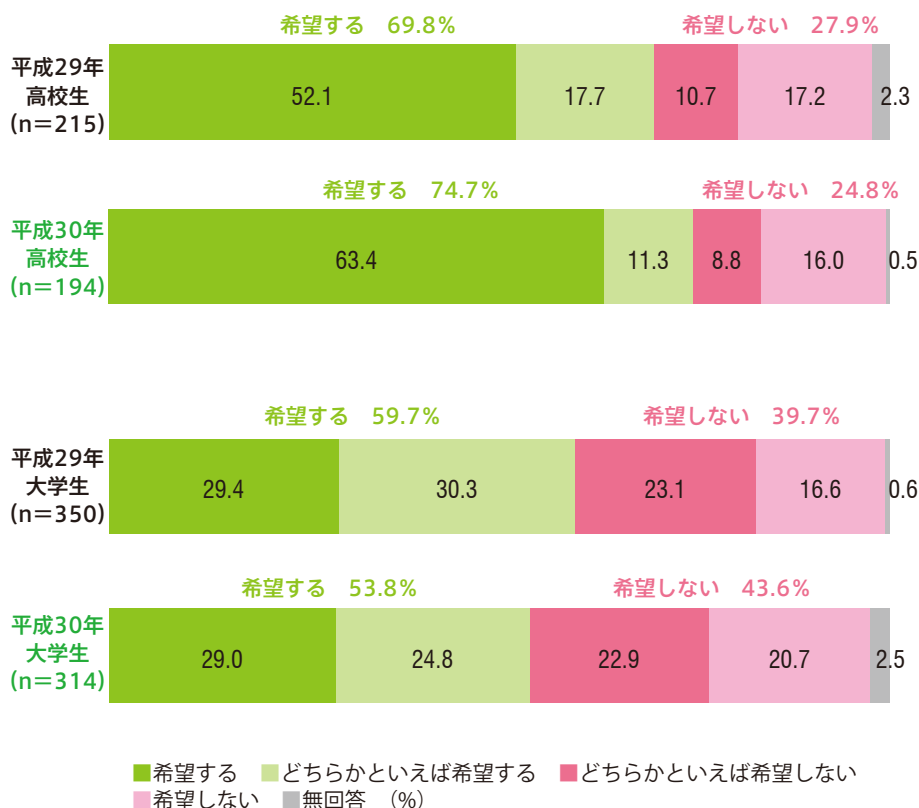
平成29年と平成30年12月に岩手・宮城・福島の高校生（水産系を中心）・大学生に対して、就職に関するアンケートを行いました。3県の学生の地元就職に対する考え方を見てみましょう。

※平成29年：被災3県高校生214名・大学生350名の回答から（2017.12 被災地における高校生・大学生・保護者の就職に関する調査）

※平成30年：被災3県高校生194名・大学生314名の回答から（2018.12 被災地における高校生・大学生・保護者の就職に関する調査）

## ■県内への就職希望について

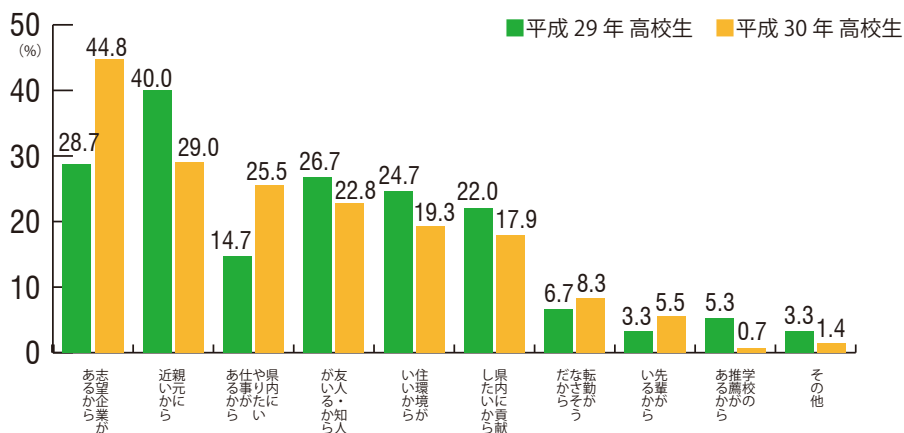
県内への就職希望者は、「希望する」又は「どちらかといえば希望する」と回答した学生が、高校生では約7割、大学生では約5割と、いずれも半数以上が県内就職を希望しています。



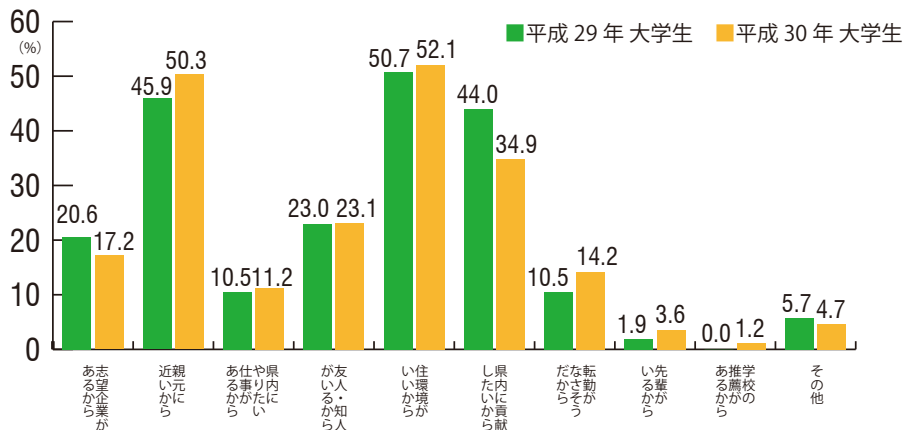
## ■県内就職を希望する理由

県内への就職希望理由は、高校生が「志望企業があるから」が最も多く、大学生では「住環境がいいから」「親元に近いから」「県内に貢献したいから」などとなっています。

高校生



大学生



## まずは、地元企業を 知ることから始めてください

就職先を選ぶ時に、大手就職サイトに掲載されているような、首都圏の大企業ばかりに目を向けがちです。

魅力ある企業を見つけるためには、なるべく多くの企業の情報に触れ、たくさんの選択肢を持っておく必要があります。それは、みなさんが知らない企業の中にも、魅力的で働きがいのある企業がたくさんあるからです。

「ジモト」で就職することも大事な選択肢の一つ。

今まであって当たり前だと感じていた家族や仲間、自然環境は、みなさんにとってかけがえのない宝物です。

魅力ある就職先を見つけるために、まずは一緒に地元企業を知ることから始めてみましょう。





問い合わせ先

---

**復興庁雇用促進班**

TEL. 03-6328-0274

---